

**絆**

149号



自由民主党

前衆議院議員

# 桜田よしたか



**日本！この国を強い国に！**  
**～国・地域・家族を守る～**

## 知育・徳育・体育で日本再生を ～わたしの教育ルネサンス論～

2060年の日本の人口は8674万人、65歳以上の高齢者の割合は39.9%——50年後のわが国の姿です。厚生労働省が公表した日本の将来推計人口からは、少子高齢化社会の厳しい現実が浮かび上がります。

〈50年後の日本社会〉

	2010年	2060年
高齢者一人を支える 現役世代	1人／2.8人	1人／1.3人
平均寿命・男性	79.64歳	84.19歳
平均寿命・女性	86.39歳	90.93歳

目に入るのはお年寄りばかり、子供の姿はあまり見かけません。働く現役世代には高齢者を支える重みが肩にのしかかってきます。私たちはこのような社会を子や孫の世代に引き継がなければならないのです。税と社会保障の一体改革など、まず政治が

問題解決に取り組むことが大切ですが、未来の大人や子供たちも荒波を乗り切れる力を身に着ける必要があります。現在の我々の世代の日本人が、次世代を担う子孫に残せる“財産”と云ったら、**精神力、知恵、そして健康な体**。この三つぐらいでしょう。三つの宝をどのように伝えるか。教育が今ほど大切な時はありません。逆に言えば、教育こそ未来を切り開くカギ。教育を再生できれば日本にもルネサンスの花が咲く。

ルネサンスを経験した西欧が停滞と暗黒の中世から抜け出したように——私はそう信じています。教育とはなんでしょうか？

教育		
知	徳	体
育	育	育

教育基本法は第二条において、教育の目標を、知・徳・体の調和のとれた発達を基本に、自主自律の精神や、自他の敬愛と協力を重んずる態度、自然や環境を大切にす態度、日本の伝統・文化を尊重し、国際社会に生きる日本人としての態度を養成すること——と、定めています。知育・徳育・体育の三つについて、私の考えを紹介したいと思います。

### ●知育～寺子屋が近代国家への道を開いた

明治維新の後、日本が近代化を成し遂げた原動力は教育水準の高さでした。1900年ごろの日本人の識字率は推定**90%**程度。国民の多くが自分や村の名を書け、公用文や公布を読むことができる人もかなり存在しました。こうした知的水準の高さがあったからこそ、近代国家を成立させ、アジアでただ一つ欧米列強の侵略をまぬがれることができたのです。知的レベルの高い国民、二本差しのサムライ…知と武を兼ね備えた国に外国勢力も二の足を踏みました。義務教育以前の教育を担ったのは、江戸時代からの寺子屋です。庶民の子が通う寺子屋の授業は主に「読み書き算盤（そろばん）」かなと簡単な漢字を覚え、算数を学びました。一方、武士の子弟は各藩が設立した公的教育機関、

藩校で「四書五経」などを勉強しました。当時の教育レベルの高さには外国人も驚いています。黒船を率いてきたアメリカのペリー提督は「日本は読み書きが普及していて、国民は見聞を得ることに熱心である」と日記に書いているほどです。

ところで、寺子屋で使われた入門書に「実語教」があります。平安時代が起源といわれるこの本は千年にわたって初等教科書のベストセラーでした。今もよく使われる「山高きがゆえに貴からず」という言葉はこの本が出典です。

昔の教育者は「人として智無きは木石に異ならず。人として孝無きは畜生に異ならず」など、読み書きと一緒に人間形成の土台を教え続けました。そんな土台がゆらいで戦後 60 年。寺子屋に戻れとは言いませんが、学校では学力向上とともに、子供たちの人間教育にも力を注いでほしいものです。

## ●徳育＝道德教育～国のあり方、公共マナーを教えよう

二つ目の徳育は道德教育と言い換えてもいいでしょう。

教育基本法の理念から言うと、徳育とは「その国、その時代の社会が理想とする人間像を目指して行われる人間形成」の営みのことです。私たちがどのような“国のかたち”を目標にするのか、〈国家百年の計〉を子供たちにしっかり教えることが大切です。

日本古来の考え方に基づく国家意識が芽生えれば郷土愛が生まれ、家族愛、隣人愛へと「思いやりの輪」が同心円状に広がります。団塊の世代と言われる私たちは、日本がどんな国を目指すのか、学校では教わりませんでした。ですから、子供たちに国のあり方を教えるのは容易ではありません。その意味で、まず大人がしっかりした考えを持つことが求められます。すべての大人が徳育の当事者、子供の規範——大人の意識改革が先決です。大人が変わらなければ、子供は変わりません。

少し古いデータですが、2007 年 8 月に読売新聞が実施した世論調査で道德教育の強化について聞いたところ、「どちらかといえば」を含めて賛成が 92%を占めました。「反対」は 6%です。

安倍内閣時代、政府の教育再生会議が「徳育の教科化」、つまり正式な教科として扱おうと提言したことがあります。しかし、教育界は乗り気ではありませんでした。「心の内面を数値で評価するのは無理だ」「検定教科書も必要だ」「中学以上なら道德専門の教員免許がいる」などの理由からです。提言は安倍首相の退陣、民主党政権の登場などで埋没してしまい、道德は正式教科にせず、教室で細々と教えているそうです。しかし、他の教科より軽んじられているのが実情ではないでしょうか。ルールはルールとして、点数をつけない教育が一つぐらいあってもいいのではないかと私はそう考えています。

## ●体育～運動通じ体力増強、自然と触れ合う体験学習

柔道、剣道、相撲…この 4 月から中学校で武道が必修化されます。男女とも 1、2 年生の体育の授業で原則、三つのうちのどれかを学ぶこととなります。武道は日本伝統の運動文化。礼節を養うとともに、体力を向上させる意味で、私は武道の必修化は大いに賛成です。ただ事故防止のため、



指導者には個々の生徒の体力や技量を見極め、休憩や水分を十分に摂らせるといった配慮が欠かせません。地域の柔道家や経験豊富な警察官OBなどを外部から招くのも一つの方法ではないでしょうか。

スポーツには競争を通じて得られるものが数多くあります。自立心、チームワーク、リーダーシップ、勝利の喜び…汗と努力が逆境に打ち勝つ体力と精神力を養ってくれるのです。しかし、大会などで勝ち進むほど出費がかさむという現実もあります。遠征の宿泊費や旅費は公的負担にしてはどうでしょうか。私は教育に金を惜しむなと言いたい。日本の未来を背負う子供たちを育て、得難い経験をさせるのですから。スポーツ教育を充実させると同時に、わたしは子供たちが自然や社会と接する**体験学習**を増やすことを提言します。

塾通いにテレビゲーム、メールの交換…ゆとり教育とはいいながら、今の子供たちは忙しすぎるような気がしてなりません。**体験学習**のまとまった時間をどのように捻出するか——**土曜授業を復させ、夏休みの半分を体験学習やボランティアに充てるというアイデア**はどうでしょうか。例えば土曜授業で福祉の仕事を手伝ったり、消防署見学したりを1日消防士になったり、身近な施設を訪問して現場で働く人たちの姿を学ぶのです。そして、夏休みは40日のうち半分をボランティアに充て農業、林業、漁業を体験するのです。畑や田んぼを耕し、荒れた山林や森を守る作業をすれば、自然に触れ合うと同時に体力作りにも役立ちます。まさに一石二鳥。これこそ真の人間教育ではないでしょうか。情報化が進む現代社会では、子供たちが世の中や自然と接する場を、大人な意識的に作ってやる必要があります。

## ●防災教育～日頃の訓練が命を子供の守る

教 育			
知 育	徳 育	体 育	防 災 教 育

東日本大震災を境に教育を取り巻く環境が大きく変わりました。

3.11以降、「いざ」という時、自ら安全を自らの行動で守る防災教育の充実が叫ばれるようになりました。また、学校というインフラには災害の際、子供たちだけでなく地域住民の命を守る「砦（とりで）」としての役割が求められています。こうした現状から、私は防災教育を知育・徳育・体育につづく4本目の柱に据えるべきだと考えるようになりました。

東日本大震災では幼稚園から高校まで**550人の児童・生徒が犠牲**になりました。悲しい出来事の中で注目されているのが〈釜石の奇跡〉と呼ばれる迅速な避難行動の事例です。岩手県釜石市では津波に襲われながら、**小中学生3000人の大半が避難して無事**でした。子供たちは指定された避難場所では危ないと自ら判断し、高台に上がって難を逃れたのです。

釜石市では日頃から子供たちに「想定を信じない」「自分が率先して逃げる」といった非難の原則を徹底して教え込んでいたようで、防災教育の重要性を示す事例といえます。

今後、私たちは地域特性に応じた防災教育の中身を詰めなければなりません、各地で次のような取り組みが実践されています。参考になると思いますので紹介します。

- ① 子供たちが過去の災害事例を地域の古老から聞き取る。地域の地形を調べ、それを元に防災マップを作成する。
- ② 運動会で担架作り競争やバケツリレー競争を行う。
- ③ 教員の意識向上。大学の養成課程や採用後の研修で、すべての教員が防災の指導法を身に着ける。全児童107人のうち74人が津波に飲み込まれた宮城県石巻市立大川小学校の悲劇を繰り返してはなりません。
- ④ 災害時に子供を引き渡すルールを学校と保護者であらかじめ決めておく。今回の震災で首都圏では保護者が帰宅困難者となり、学校から戻った子供が誰もいない自宅で長時間過ごすケースが相次ぎました。

## 学校の防災機能を高めよう～耐震化、防災グッズ備蓄

今回の大震災では6000を超す公立校で建物に被害が出ました。津波によるものがほとんどで、地震による校舎の倒壊で学校関係者が死亡した例はなかったようです。阪神大震災以降進められてきた校舎や体育館の耐震化事業に一定の効果があったといえますが、全国的にみるとまだ1割程度の補強が手つかずのまま。耐震化率100%を早急に達成すべきです。東日本大震災では、多くの学校が避難所になりました。命を守ってくれる砦として地域住民が身を寄せたのですが、弱点も浮かび上がりました。暗い、寒い、固定電話がつかない…といった不便さです。これからは防災拠点としての学校づくりが求められます。建物自体の耐震化はもちろん、天井、壁、窓ガラスといった部材の強化、自家発電装置や水・非常食の備蓄、さらには衛星携帯電話の配備も検討すべきでしょう。

学校を地域の防災拠点にするには教育、防災、福祉など行政の垣根を超えた連携プレーが求められます。縦割りの発想を捨て、協力して知恵を出し合うことが大切です。



### ★櫻田義孝千葉テレビのお知らせ★

櫻田義孝がメインキャスターの「サタデー千葉プロジェクト」絶賛放送中！政治から地元の話まで櫻田の鋭い解説を毎週お届け致します。【放送局・時間】千葉テレビ(3ch)朝9:30～10:00  
※既放送回については、順次 YOUTUBE に UP しております！

#### 4月7日(土)＜放送第23回＞

- 第1部:著名人との対談  
全国中小建築工事団体連合会 藤本高信副会長  
～震災後の仮設住宅建設に関する業界の対応～
- 第2部:地域の有名人との対談  
筑波大学 安藤邦廣教授  
～震災後の仮設住宅建設に関する専門家の対応～
- 第3部:地域の有名人との対談  
我孫子市 水の館、鳥の博物館

#### 4月14日(土)＜放送第24回＞

- 第1部:著名人との対談  
伊藤元重 東京大学教授
- 第2部:地域の有名人との対談  
千葉県自動車整備振興会
- 第3部:地域のイベント 布施弁天 お花見

#### 4月21日(土)＜放送第25回＞

- 第1部:著名人との対談  
豊田正和 日本エネルギー経済研究所所長
- 第2部:地域の有名人との対談  
柏リトルシニアリーグの父兄インタビュー
- 第3部:地域のイベント  
我孫子 井上家旧宅

#### 4月28日(土)＜放送第26回＞

- 第1部:著名人との対談  
JAXA「はやぶさ」プロジェクトリーダー 川口淳一郎教授
- 第2部:地域の有名人との対談  
自衛隊父兄会 渡辺昭
- 第3部:地域のイベント  
東日本大震災復興支援イベント  
チャリティーミュージックフェス絆2012(4月15日開催)

## 党員募集のお知らせ

【入党手続き】 桜田事務所までご連絡ください

【自民党員になると】2年間継続した党員は、自民党総裁選挙の有権者となります。また桜田義孝事務所より活動報告や行事案内をお送り致します。

【党員種類】 一般党員 年間4,000円 家族党員 年間2,000円

桜田義孝事務所

〒277-0814 柏市正連寺374 TEL:04-7132-0881 FAX:04-7132-6456

ホームページ <http://www.sakurada-yoshitaka.com/>

メールアドレス [web@sakurada-yoshitaka.com](mailto:web@sakurada-yoshitaka.com)

Twitter (ツイッター) <http://twitter.com/ysakurada>